

日本資料専門家欧州協会（EAJRS）参加記

平野 宗明
アジア歴史資料センター

1. はじめに

2009年9月16日から19日にかけて、日本資料専門家欧州協会（European Association of Japanese Resource Specialists：EAJRS）の第20回年次総会が、英国ノーフォーク州のノーリッジ（Norwich）市にて開催された。EAJRSは、欧州内の大学附属図書館、公共図書館、資料館、研究機関に所蔵されている日本関係資料の情報、及び日本国内における特に歴史的資料についての調査・研究を、相互に紹介するために創設されたものである。同協会は毎年欧州内の各都市で学会形式の年次総会を行っており、第20回目を迎える今回の会場は英国のノーリッジであった。

アジア歴史資料センターでは、同協会を、在外日本関係資料の情報、国内類似事業の情報を得る場として、また関係者との交流を深める場として重視しており、これまでも、2007年にローマで開催された第18回年次総会、2008年にリスボンで開催された第19回年次総会に参加してきた。前回のリスボンでは、石井米雄センター長がセンターの開設理念と存在意義についてのプレゼンテーションを行っており、今回は、これに続くかたちで、センターの現在の取り組みと今後の展望を紹介することを目的として、濱田次長と平野研

平野 宗明（ひらの むねあき）
独立行政法人国立公文書館アジア歴史資料センター研究員

究員の2名で参加することとなった。

本稿は、平野の私見に基づいた、EAJRS第20回年次総会の参加記である。

2. 会の様子

ノーリッジは中世の面影を色濃く残す町であり、会場となったMaids Head Hotelも主要部分は13世紀に建てられたもので、会期中に館内の歴史ツアーが行われるほどの歴史的建造物であった。そしてその向かいには、ノルマン様式の大聖堂が聳えている。



Maids Head Hotel 外観

EAJRSの構成員は、この会の名称通り、基本的にはヨーロッパにおいて日本資料の収集・保存・公開事業に携わっている、大学附属図書館、公共図書館、資料館、研究機関に

勤務するスタッフや、日本関係資料（文字資料・図像資料）についての調査・研究を行っている内外の専門家であるが、これに加えて、こうした人々に対して情報提供をする側、すなわち様々な資料のデータベースの開発や提供サービスを行っている企業等の人々もいる。今回も、西欧・東欧から北欧に至るヨーロッパ各国をはじめ、南米やアジアの国々の図書館や文書館に勤務する日本資料担当職員や研究者と共に、過去の新聞記事のデータベース化を行い公開している、いくつかの日本の新聞社のスタッフ等も参加していた。

参加者の総数は、閉会時に事務局より発表されたところによれば96名であった。前回までが平均して60～70名であったとのことなので、今回はかなりの盛況であったと言えるだろう。このうち、日本からの参加者は我々も含めて20名であったが、実際には会場は多くの日本人によって占められていた。すなわち、多くの日本人が各地の図書館や文書館で日本資料の担当スタッフとして活躍しているのであり、この事実は非常に印象的であった。また、日本人でなくとも、日本資料を用いて日本の歴史・文学・芸術の研究を行っている専門家の中には日本語を話す人も多く、



開会前の会場の様子

会場での「公用語」はほぼ日本語という状態であったように思う。発表も、日本語が6割、英語が4割というところで、正直に申せば、英語でのコミュニケーションに不安を感じていた筆者にとっては非常に有り難い場であった。

3. プログラム

会は、Maids Head Hotel の会議室を会場とし、30分間（発表20分、質疑応答10分）の個別発表が1つずつ順番に進められてゆくという1会場の学会形式であった。発表数は、第1日目が5件に加えてパネルディスカッション内の小発表7件、第2日目が13件、第3日目が5件に加えてパネルディスカッション内の小発表が3件、最終日が5件であり、また、これに加えて第2日目には“Third Thursday Lecture”と呼ばれる会場外での講演会で協会チェアマンによる講演が行われるなど、充実したプログラム構成であった。さらに、市庁舎訪問（市長によるレセプションあり）や夕食会、ケンブリッジ大学図書館・博物館見学のツアー、イースト・アングリア大学セインズベリー・センター（博物館）見学のツアーも行われ、発表以外の企画も充実したものであった。

プログラムは文末に示す。



会の様子

4. アジ歴プレゼンテーション

アジ歴からは、濱田次長が第2日目の第4セッションで“Current Situation of the JACAR Digital Database and its Future Perspective”と題した発表を行った。はじめにアジ歴の事業概要の説明を行い、次に現在の取り組みとして、データベースの質の向上、「紀香の「アジ歴」スペシャルコーナー」、「アジ歴コンサイス」、高等学校歴史教員との連携についての紹介を行った。特に「紀香の「アジ歴」スペシャルコーナー」の紹介には多くの時間を用い、オープニングムービーの他、「杉原千畝と「命のビザ」」、「ポーツマス講和会議」の2項目について実際に動画を再生して見せると共に、解説文と資料画像も大まかな形でたどって見せた。

発表時の質疑応答では、フロアからの質問、意見は共に出なかった。しかし、その後の参加者との交流を通じていくつかの反応を得ることができた。まず、日本国内でデータベースの構築やその提供に取り組んでいる民間企業の方々は、ユーザー層拡大、特に若年層ユーザーの獲得を目指した「紀香の「アジ歴」スペシャルコーナー」の手法に対して興味と関心を示し、彼らからは良い感触を得た。次に、各地の図書館・資料館に勤務する方々からは、アジ歴のデータベースや公開資料についての説明の充実を求める声が寄せられた。具体的には、英語での資料検索ができるのであれば、特に国際舞台なのだからそれを十分にアピールしてはどうか、というアドバイスや、公開している資料がどのようなものであるかについての説明をもっと欲しい、という要望があった。これらの点は、次回以降の課題とすべきと思われる。

5. おわりに

2008年の第19回年次総会（於リスボン）における石井センター長の発表は、アジ歴の意義や可能性について参加者に強い印象を与



会場入口のテーブル

えた模様で、前回に引き続き参加した方々からは、アジ歴への評価・期待を示して貰うことがあった。

また、会場入口のブースには、事前に配布した関連グッズ・資料（和文リーフレット1部、クリアファイル1セット、ポストカード4セットを封筒に収めた）70セット及びDVD40枚（NTSC版20枚、PAL版20枚）を並べ、自由にとって貰う形で、最終日までにして配布することができた。

EAJRSは、毎回継続して参加している人も多く、段階を追った発表を行うケースも見られたので、今後、海外でのさらなる認知度向上と利用促進を目指すアジ歴としても、毎回参加、及び毎回発表を心がけ、順序立てた発表を行っていくことが肝要ではないかと思われる。さしあたって今回は、今回発表後に寄せられた要望に応じる形で、英訳目録データ及び英語による資料検索の紹介と共に、公開資料の具体的な紹介を行うのが良いのではないかと。この際、海外からの関心の強い資料を選んで紹介するのが、アジ歴の有用性のアピールとして重要であると思われる。

日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) 第 20 回年次総会プログラム (仮訳)

月日	第 1 日 9 月 16 日 (水)	
13:00 ～ 13:30	【開会式】 主催者挨拶：エリザベス・エステベ・コル EAJRS 会長挨拶：ウィリー・F・ヴァンドウ ワラ	【電子情報に関するパネル展示】 (主催：Antony BOUSSEMART、ヘイミッシュ・ トッド) 「海外で利用可能な日本のオンライン文献の 紹介と北米市場」三竹大吉 (紀伊国屋書店) 「朝日新聞データベース 日本近現代史の資 料の宝庫」椎木 宏 (朝日新聞社) 「皓星社「雑誌記事索引集成データベース」 明治から現在、全国誌から地方誌まで」淵 野智博 (丸善) 「ヨミダス歴史館-135 年の日本の歴史をオン ラインで」松井正 (読売新聞社) 「日本語基礎資料のデータベース「ジャパ ナレッジ」の新コンテンツの概要-日本古典 文学全集と国史大辞典」田中政司 (ネット アドバンス) 「E- リソースの利点と日経テレコン 21 の特 徴について」平川 潤、KABETO Kaoru (日 経ヨーロッパ社) 「日本関連電子情報の欧州コンソーシアム」 Antony BOUSSEMART (フランス国立極東学院)
13:30 ～ 15:00	【第 1 セッション】 「国立国会図書館における新たなレファレン ス・ツール リサーチ・ナビを中心として」 藤巻正人 (国立国会国会図書館) 「ジャパン・アート・カタログ (JAC) プロジェ クトについて」平井章一 (国立新美術館) 「日本美術研究関係図書館資料の収集と専門 図書館のコレクション構築-利用者の立場 からの報告」河合正朝 (セインズベリー日 本芸術研究所、慶応義塾大学)	
15:30 ～ 18:00	【第 2 セッション】 「北欧学術図書館の日本学支援状況およびオ スロ大学図書館の日本古典籍状況概要」マ グヌスセン矢部直美 (オスロ大学図書館) 「日本近世の版本における蔵版目録の研究： 須原屋市兵衛の出版物を中心に」松田泰代 (京都大学)	
	館内見学 18:30 ~ 19:30 主催者レセプション 19:30-21:30	
月日	第 2 日 9 月 17 日 (木)	
09:00 ～ 10:30	【第 3 セッション】 「日本古典籍分類表の活用とコーニツキー版ユニオンカタログの新展開」大内英範・伊藤鉄 也 (国文学研究資料館) 「ARC メソッドを用いた日本美術コレクションのデジタルアーカイブ化の実践」赤間 亮 (立 命館アート・リサーチ・センター) 「国際日本文化研究センター所蔵古医書資料について」江上敏哲・フレデリック クレイ ス (国際日本文化研究センター)	
11:00 ～ 12:30	【第 4 セッション】 「フランス OPAC データベースにおける日本語図書目録：概観と展望」BABA Kaoru (コレー ジュ・ド・フランス) 「クレットマンコレクション『獻英楼画叢』について」セキコ・プチマンジャン=マツザキ (コ レージュ・ド・フランス) 「インターネットで見る板東俘虜収容所 (http://bando.dijtokyo.org)」ウルズラ・フラッ ヘ (ベルリン国立図書館) 「アジ歴データベースの最近の状況及び展望」濱田英彦 (アジア歴史資料センター)	

12:30 ～ 14:00	<p>【市公会堂訪問および昼食】 ノーウィック市役所にて市長及び県長官の挨拶を受け昼餐。</p>
14:00 ～ 15:30	<p>【第5セッション】 (主催:セインズベリー日本芸術研究所 於:オックスフォード大学ブラックフライアーズホール) 「大英図書館の日本語コレクションについて」ヘイミッシュ・トッド (大英図書館) 「19世紀英国における日本人演芸一座について電子資料から学ぶこと」小山 騰(ケンブリッジ大学) 「コータツツイ・コレクションについて」ヒュー・コータツツイ卿</p>
16:00 ～ 17:30	<p>【第6セッション】 「日本における方言と書物」ピーター・コーニツキ (ケンブリッジ大学) 「江戸期の図鑑へのアクセスの拡大」エリス・ティニオス (リーズ大学) 「マドリード・コンプルテンセ大学美術学部図書館所蔵の武者絵について」ピラール・カバーニャス=モレノ、佐々木 守俊 (マドリード・コンプルテンセ大学) 「日本の蘭学：本草学から自然誌へ」ウィリー・F・ヴァンドウワラ</p>
	レセプション及び晚餐
月日	第3日 9月18日(金)
09:00 ～ 10:30	<p>【第7セッション：パネル 日本関係画像資料の学術的使用】 (主催：小出いずみ) 「画像の出版掲載許可の取得について：3つの事例から」野口幸生(コロンビア大学C.V.スター東アジア図書館) 「画像提供者側から：ボドリアン図書館の画像提供サービスについて」イズミ・タイトラー(オックスフォード大学ボドリアン図書館附属日本研究図書館) 「日本関係画像を国外で利用する際の問題点とNCCのウェブガイド」小出いずみ(財団法人 渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター、北米日本研究資料調整協議会画像資料使用特別委員会委員) 「成尋阿闍梨母日記にみるさまざまな文章表現」ロバート ボーゲン (カリフォルニア大学デービス校)</p>
11:00 ～ 13:00	<p>【第8セッション】 「日本美術の中の動物：キョッソーネ東洋美術館所蔵品の中の一次解釈資源としての画像」ドナテッラ・ファイッラ(キョッソーネ東洋美術館) 「歴史資料としての『浪華勝概帖』：大坂の武士と文化」内海寧子(関西大学) 「マカオ科学文化センター(CCCM)の研究プロジェクトとドキュメントコーパス」Ana Cristina DA COSTA GOMEZ, Isabel Alexandra MURTA PINA(マカオ科学文化センター) 「国際文化会館図書室の役割について」林 理恵(国際文化会館)</p>
	ケンブリッジ大学図書館及びフィッツウィリアム図書館見学

月日	第4日 9月19日(土)
09:00 ～ 11:30	<p>【第9セッション】</p> <p>「台湾大学図書館所蔵の日本研究文献から見た日本植民史」 徐 興慶 (国立台湾大学)</p> <p>「トロント大学と慶応義塾大学との司書交流プログラム：司書と派遣元機関にもたらされた利点」 ファビオ・タカチ ロシヤ (トロント大学図書館)</p> <p>「フランス国立ギメ東洋美術館図書館所蔵の和古書について」 ソケール正子 (国立ギメ東洋美術館図書館)</p> <p>「国立マルチャーナ図書館所蔵の日本関連古典籍について」 Sonia FAVI (国立カ・フォスカリ大学)</p> <p>「55枚の小さな浮世絵：国立劇場所蔵（役者見立絵）三代歌川豊国画『東海道五十三次』」 NAKAMURA Sumiko</p>
	<p>EAJRS 年次総会、閉会式 12:00～13:30</p> <p>セインズベリー視覚芸術センター及びイースト・アングリア大学訪問 14:00～16:00</p>

大会プログラムと要旨はEAJRSウェブサイトから見ることができます

<http://japanesestudies.arts.kuleuven.be/eajrs/> (英文)